

記入日 2024年 9月 24日
 助成団体名 水銀に関する水俣条約推進ネットワーク

2023年度「水俣・熊本みらい基金」助成事業報告書

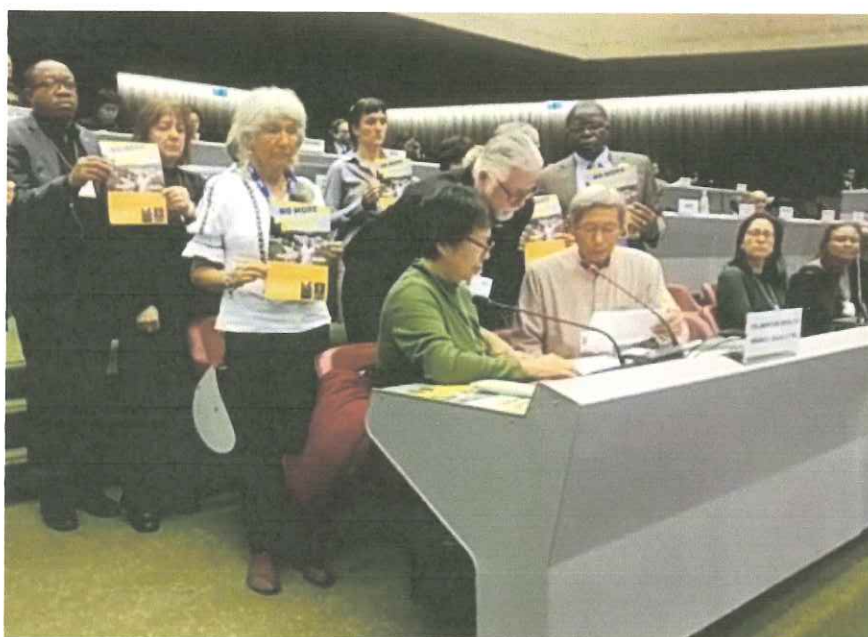
企画テーマ	「水銀に関する水俣条約」推進活動
取り組み実施期間または日時	2023年9月～2024年9月

【取り組み目的】

「水銀に関する水俣条約」は、日本を含む140カ国以上が締約している国際条約です。ただ、水銀の使用や輸出入などを規制する仕組み作りの議論が各国の間で続いている一方、ブラジルや東南アジアなど発展途上国を中心に今も水銀による健康被害の危険性をはらんだ地域が多くあります。今回の取り組みでは、条約の具体的な中身が議論される国際会議の場において、水俣病の被害者が改めて自らの経験を世界に訴えることによって、条約を巡る議論がスピードアップするための「カンフル剤」になるとともに、世界中の人々に水銀の恐ろしさに対する認識を少しでも深めてもらい、世界のどこかで新たな健康被害が発生することを止める一助になることが目的です。合わせて、条約の締約国がさらに増え、また条約の実効性がさらに高まることに寄与したいと考えております。

【取り組み内容と成果】

水俣条約締約国会議の第5回目（COP5）が2023年10月30日～11月3日、スイス・ジュネーブで開催されました。水俣病被害者の高齢化が進む中、今回は親や親族が認定患者で、なおかつ自らも被害補償を求めて裁判を続けている佐藤英樹さん、スエミさん夫妻（熊本県水俣市在住）が締約国会議に参加することになりました。当団体は、佐藤夫妻の渡航及びジュネーブでの諸活動を全面的に支援し、スタッフ1人が同行



しました。また、佐藤さん夫妻を巡る状況や思いなどをまとめたチラシ（英語表記）を作成し、各国政府担当者など会議参加者らに配布しました。

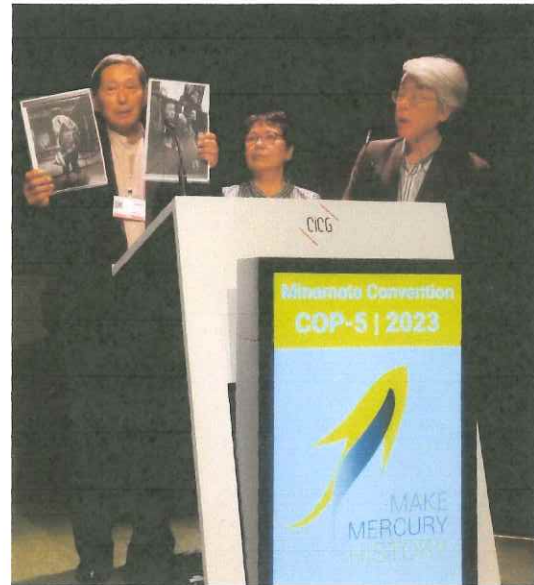
締約国会議では、佐藤夫妻が特別に5分ほどスピーチする時間を得ることができました。世界に向けて

「水俣条約を作って本当に良かったと言える日が1日も早く来ることを願っています」と訴えると、会議場全体から大きな拍手が沸き起こりました。

スピーチの際には、会議に参加していた各国の環境NGOのメンバーらが、私たちが作成したチラシを持って佐藤夫妻の周りに集まり、サポートしてくれました。

議場外でも、各国の政府担当者や環境NGOのメンバーらと交流することができ、水銀被害の重大性や自らの体験などを、当時の写真を使いながら説明することができました。また、水俣病被害を描いた映画「MINAMATA」の上映会がサイドイベントとして開催され、そこでも佐藤夫妻が登壇して当時の様子を解説しました。

COP5の直前には佐藤さん夫妻の壮行会、帰国後には「COP5参加報告会」を水俣市内で開催し、多くの市民が感心を持って参加してくれました。

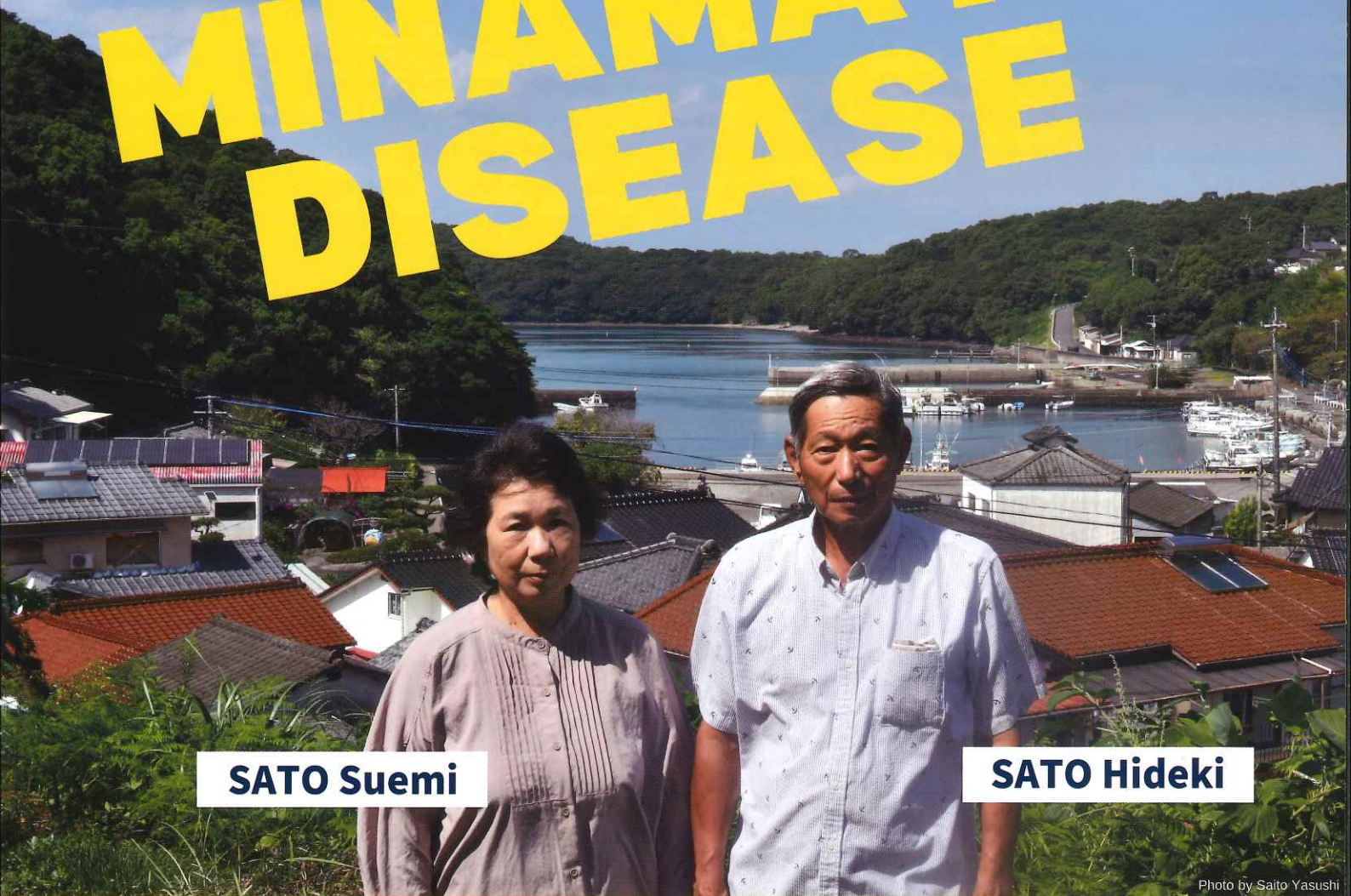


※COP5の議場などで関係者に配布したチラシのほか、一連の取り組みを取材・報道した新聞記事を参考資料として添付します。

【備考欄】

COP5の準備を進める「アジア地域会合」が2023年9月5～6日にタイ・バンコクで開催されましたので、スタッフ1人を派遣しました。その過程でインドネシアの関係NGOと協議するためにジャカルタを訪問しました。

NO MORE MINAMATA DISEASE



SATO Suemi

SATO Hideki

Photo by Saito Yasushi

We have been witnessing Minamata Disease, as family members of certified patients of Minamata Disease caused by methyl mercury poisoning.

In 2014, we visited Ontario, Canada, to meet mercury-affected indigenous people. We also met with people in Indonesia from communities affected by mercury from small-scale gold mining in 2016.

Mercury damage is still happening. In order to stop the health impacts caused by mercury, we need to immediately stop the use of mercury in gold mines, stricter regulations on mercury waste, and control mercury-added products.

We hope that many countries and regions will join the Convention and make efforts to achieve its objectives together.

These photographs of Hideki's parents were taken by Eugene and Aileen Smith, photographers who captured the reality of Minamamata Disease and showed it to the world. The story was also depicted in the movie "MINAMATA"(2020).

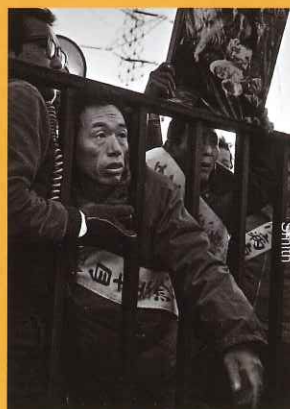


Photo by Eugene W. Smith © Aileen Mitoaka Smith

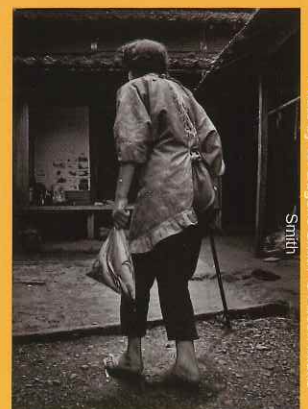


Photo by Eugene W. Smith © Aileen Mitoaka Smith

I was born in a fishing village about 15 km north of Minamata Bay. Around 1959, some people died of acute fulminant Minamata disease in our community. I got married and managed our life as orange farmers while supporting my husband's sick mother. I also suffer from severe headaches and nausea, and I become bedridden when my condition worsens, about three days a month. We are victims of mercury pollution that occurred in Minamata 70 years ago. Neither the residents nor the doctors understood it at the time, and then damage caused by mercury pollution on health and the environment expanded. Please do not repeat such tragedy in the world.



SATO Suemi

佐藤スエミ

I was born in 1954 and grew up in a fishing village at Minamata Bay. My father, my mother, and my grandmother were fishers and certified Minamata disease patients. My grandfather died after a severe seizure. I am of the same generation as the fetal Minamata disease patients who were exposed to mercury in their mother's womb. Since I was a kid, my legs would get cramping and I would cry out in the middle of the night. I am still suffering from numbness and cramps in my hands and feet, and have been fighting in court for recognition as a victim and compensation since 2007. Many people in Minamata are still suing. The full extent of the damage is still unknown.



SATO Hideki

佐藤英樹

The Fight Against Minamata Disease Is Not OVER yet.

History of Mercury pollution in Minamata

- In 1932, Chisso Minamata factory began acetaldehyde production (The beginning of mercury contamination).
- In 1958, Chisso changed the drainage channel. → Pollution expanded.
- In 1962, 16 patients of fetal Minamata disease were reported.
- In 1968, the Japanese government made an "official acknowledgement". → Chisso was found responsible.
- In 1969, the first lawsuit was filed.
- In 1973, the victims won the court case.
- In 1977, the government set stricter condition for Minamata Disease judgment .
 - Number of new certified cases decreased drastically.
- In 2004, the Supreme Court of Japan stated the government's responsibility.
- In 2009, the Act on Special Measures Concerning Relief for Minamata Disease.
 - Reparation and medical assistance for 40,000 Victims.
- In 2017, Japan ratified the Minamata Convention on Mercury.
- In 2023, a court ruled that 128 plaintiffs were eligible for compensation for damage caused by Minamata disease.

30日からジュネーブで水俣条约会議

『水銀の怖さ世界に伝えたい』

2023
10/25
土曜日

水俣病の原因となった水銀の世界的な規制を目指した「水銀に関する水俣条約」第5回締約国会議が30日〜11月3日、スイスのジュネーブで開かれる。熊本県水俣市からは、佐藤英樹さん(68)と妻スエミさん(67)が参加する。壮行会が20日、水俣市内であり、佐藤さんは「水銀の怖さを世界に伝えたい」と抱負を語った。

【西貴晴】

水俣条約は水銀による地球規模の環境汚染や健康被害防止に向け、2013年に熊本県で開かれた外交会議で採択された。17年に発効し、147の国・地域が参加している。佐藤さんは両親と祖



「水銀に関する水俣条約」第5回締約国会議に参加する佐藤英樹さん(後列右)とスエミさん(後列左)。前列右は坂本さん、左は松永さん

地元から参加 佐藤夫妻が抱負

母(いずれも故人)が水俣病と認定された。佐藤さん自身も未認定患者団体「水俣病被害者互助会」会長として熊本県に認定を求めて提訴し、福岡高裁で裁判が続いている。

2人はジュネーブでの全体会議冒頭で水銀被害防止について訴える見通し。壮行会には約20人が参加し、佐藤さんは「被害者の苦しみは水俣病になった人でないと分からない。そういうことを伝えたい」と語った。佐藤さんとスエミさんはともに14年にカナダ、16年にインドネシアを訪れ、それぞれ現地の水銀被害者と交流している。スエミさんは「水

銀被害根絶には世界の協力が重要だと伝えたい」と話した。

水俣条約を巡っては、ともに水俣病胎児性患者の坂本しのぶさん(67)が17年の第1回会議で、また、松永幸一郎さん(60)が19年の第3回会議でそれぞれ被害根絶を訴えている。壮行会に参加した坂本さんは「頑張って被害を伝えてきてほしい」。松永さんは「将来の子どもたちのためにも世界に向けて規制を訴えてきて」と佐藤さんに思いを伝えた。

会議では水俣病の撮影を続けた米国人写真家、故ユージン・スミスを主人公にした映画「MINAMATA」が開幕前日に上映される。佐藤さん夫妻は26日に水俣市を出発、11月4日に帰国の予定。

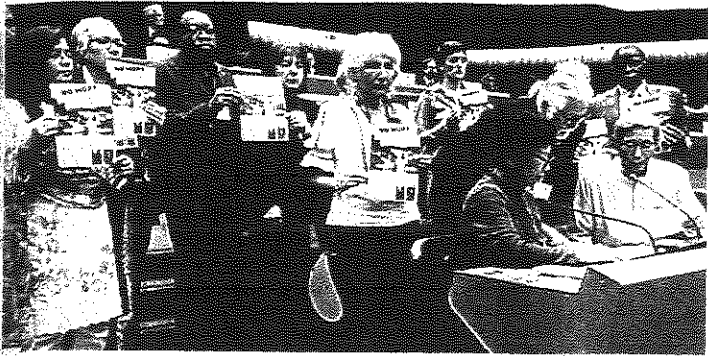
「水銀の怖さもっと知って」

2人は、多くの国や地域が条約に参加して目標の達成に向けて努力してほしいと呼びかけ、「条約をつくって本当に良かったと思える日が一日も早く来てほしい」と締めくくった。後ろでは水銀の被害撲滅を訴えるチラシを手にした関係者が見守り、スピーチ後の会場は大きな拍手で沸いた。

「水俣条約」締約国会議

「水銀に関する水俣条約」の第5回締約国会議（COP5）が10月30日、スイス・ジュネーブで開幕し、日本から参加した水俣病の未認定患者団体「水俣病被害者互助会」の佐藤英樹会長（68）と妻スエミさん（67）がスピーチした。水俣病の原因となった水銀の被害根絶を願い、「世界の人たちにもっと水銀の怖さを知ってほしい」と呼びかけた。

（白石一弘）



佐藤さん（右端）、スエミさん（右から2人目）と後ろでチラシを掲げる関係者（10月30日、スイス・ジュネーブで）＝MICOネット提供

互助会・会長夫妻 世界へ訴え



両親の写真を掲げて水銀被害の撲滅を訴える佐藤さん（左）とスエミさん（中央）ら（10月29日、スイス・ジュネーブで）＝MICOネット提供

佐藤さん夫妻を支援する「水銀に関する水俣条約推進ネットワーク」（MICO ネット、水俣市）によると、2人は開幕後の全体会議（本会議）の冒頭で世界に向けてメッセージを発信した。

佐藤さんは両親と祖母が認定患者で、自身と妻も胎児性患者と同じ世代だと紹介した。手足のしびれなどの苦しみや被害補償を求め

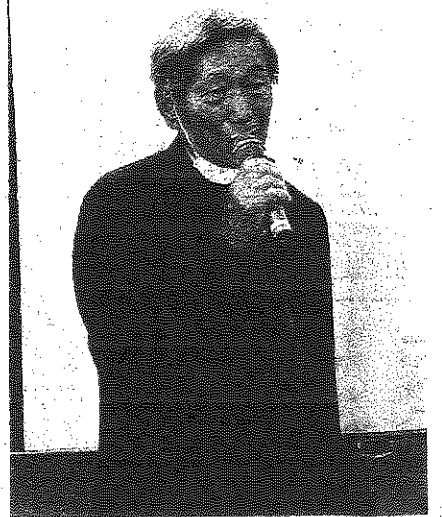
る裁判について語り、「水俣病被害の全体像は分かっている」と説明した。スエミさんは「水銀の被害を受ける一生涯、死ぬまで病気がから逃れられない」と警鐘を鳴らした。

「MINAMATA」上映会にも登壇

10月29日には、水俣病被害の実相を描いた映画「M

INAMATA」の上映会にも登壇した。佐藤さんは、映画のモデルになった米国人写真家ユージン・スミス（1918～78年）の写真集に掲載された父母の写真を見せ、「被害を繰り返してはならない」と訴えた。

水俣条約は水銀の使用や輸出入を規制する国際的な条約で、「公害の原点」とされる水俣病を教訓として日本が提唱した。9月までに147の国と地域が批准している。COP5は約1000人が出席して11月3日まである。2人は現地での活動を続け、4日に帰国する予定。



水銀に関する水俣条約の第5回締約国会議に参加し、活動を報告する水俣病被害者互助会の佐藤英樹会長
=18日、水俣市

水銀の怖さ 世界に訴え

2023.11.18
締約国会議に
参加の佐藤さん

水俣市で報告会

水銀に関する水俣条約の第5回締約国会議に参加した水俣病被害者互助会の佐藤英樹会長(68)と妻スエミさん(67)の活動報告会が18日、水俣市公民館であった。佐藤会長は「一日でも早く水銀が使われなくなるようお願い、世界の人に訴えることができた」と語った。

会議はスイス・ジュネーブで10月30日～11月3日の日程であり、144の国と地域の代表者が出席。佐藤さん夫妻はオブザーバー参加の団体の一員として、初日の本会議冒頭に各国の代

表者を前にスピーチし、「水銀の被害を受けると死ぬまで逃れることはできない。もっと怖さを知ってほしい」と訴えた。

報告会では会議の様子や、現地であった米映画「MINAMATA」の上映会の様子を写真や動画で紹介。佐藤会長は「世界では金の採掘や化粧品材料などに水銀が当たり前のように使われていることが分かった。どのような影響を人に与えるか想像が欠けている」と述べた。

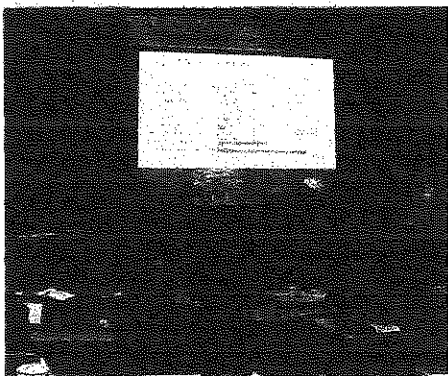
報告会は「水銀に関する

水俣条約推進ネットワークが開き、約30人が参加した。
(上野史央里)

国際フォーラム 研究成果を発表

2023.11.19
熊日 水俣できょうまで

環境省国立水俣病総合研究センター(国水研)が主催する国際フォーラムが18日、水俣市の国立水俣病情報センターで始まった。各国の研究者や専門家らが、水俣病の悲劇を繰り返さないための成果を発表した。最終日の19日は水俣高2年、中村百花さん(16)も登壇し、



各国の研究者が水俣条約の有効性について発表した国際フォーラム

壇し、フォーラムから年々増加する水俣病に関する報告から、水俣病の発生から60年が経過し、水俣病の被害者や関係者の健康被害が深刻化していることが明らかになった。水俣病の発生から60年が経過し、水俣病の被害者や関係者の健康被害が深刻化していることが明らかになった。

水銀被害撲滅 世界に訴え

締約国会議出席の佐藤さん

水俣で報告会

「公害の原点」といわれる水俣病の原因となった水銀を包括的に規制する「水銀に関する水俣条約」の第5回締約国会議（10月30日～11月3日、スイス・ジュネーブ）の報告会が18日に水俣市であり、現地で水銀

被害の根絶を訴えた「水俣病被害者互助会」会長の佐藤英樹さん（68）＝同市＝が「水銀による被害が一日も早くなくなるようにと思いい、スピーチした」と振り返った。

佐藤さんと妻スエミさん



報告会で両親の写真を掲げる「水俣病被害者互助会」会長の佐藤英樹さん

（67）は締約国会議開幕後の全体会議の冒頭、各国代表を前にスピーチ。「水銀の被害を受けてしまうと、一生、死ぬまでこの病気から逃れることができない」とした上で「世界の人たちに、もっと水銀の怖さを知ってほしい」と訴えた。

報告会には水俣病の患者ら約30人が参加した。佐藤さんは、水俣病を世界に告発した米国人写真家、故ユージン・スミスさんを描いた映画「MINAMATA」の上映会が開幕前日に現地であったことを紹介。400人以上の観客を前に水俣

病認定患者だった両親の写真を掲げて水銀被害の撲滅を訴えたといい、「関心を持ってもらい、本当に良かった」と話した。

上映会や全体会議には胎児性患者の存在を明らかにした故原田正純医師の長女利恵さんから譲り受けた原田医師のシャツを着て出席したことを明かし、「後ろから応援してもらった気がした」という。

世界では、金の採掘や化

粧品の材料などに水銀が当たり前に使われているとして「他者への思いやりが欠けている」と批判した。

水俣条約は2013年10月に熊本県で採択され、17年8月に発効。現在は147カ国・地域が加盟している。第5回締約国会議では直管蛍光灯の製造と輸出入を27年末までに禁止することなどで合意した。

（古川剛光）

水銀被害 苦しみ今も

佐藤さん夫妻 スイスの「水俣条約」会議で訴え

故原田医師のシャツから勇氣

人体に有害な水銀を規制する「水俣条約」の第5回締約国会議が10月末～11月初めにかけて、スイス・ジュネーブで開かれた。水俣病の被害を訴える水俣市の佐藤英樹さん(68)と妻のスエミさん(67)が出席し、今も続く水俣病の被害を訴えた。18日に水俣市で報告会を開いた。

水俣で報告会

水銀使用を批判すると殺されたりする世界があることを知った。自分の暮らしていることだけ考えて生きている人たちがまだいることがわかった」と語った。

報告会では、現地で撮影した写真を見ながら活動を振り返った。

スイスの会議の冒頭で、

英樹さんは出発前、水俣病患者の治療に献身した故原田正純医師の家族から、原田医師が着ていたベージュ色のシャツを贈られた。開幕前夜にあった映画「MINAMATA」(ジョニー・デップ主演)の上映会と、翌日の開会式直後にあつた全体会議冒頭でのスピーチという「勝負どころ」で着用したことを紹介。「勇氣をもらいました」と話した。

2人は「水銀に汚染された魚をたくさん食べて育ちました」「手足のしびれなどに今も苦しめられていま

す」「世界の人たちに、もっと水銀の怖さを知ってほしいです」「水銀の被害は今も世界中で進んでいきます。水俣条約をつくって本当によかったと言える日が、一日も早く来ることを願っています」と訴えた。

水銀規制に取り組み世界の人たちと交流した英樹さんは「水銀が使われた化粧品がまだ出回っていたり、

水俣条約は2013年に採択され、現在147の国と地域が加盟している。今回の締約国会議では、27年末までにすべての蛍光灯の製造が禁止されることになった。一方、水銀汚染の原因として多くを占める、小規模な金掘削で金を抽出する際に使われる水銀の禁止について具体的な措置は決まらなかった。

(今村建二)



水俣病患者である両親の写真を見せて「被害を繰り返してはならない」と訴える佐藤英樹さん(左)とスエミさん=10月29日、スイス・ジュネーブ、MICOネット提供